

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第3号 野菜

発行日 平成22年 5月27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

今後2週間程度低温が予想されています。以下に留意して農作物の管理に努めましょう。

- 施設果菜類では、温湿度管理を徹底し、生育に応じた早めの作業で草勢維持に努めましょう。
露地果菜類では、活着を促進し初期生育を良好にするため、土壤水分や地温を確保するとともに、露地きゅうりではポリキャップなどを利用して防風、保温対策に努めましょう。
- 明け方の冷え込みが予想される時は夕方早めにハウスを閉め、必要に応じて補助暖房等を活用しましょう。
- 灌水の必要がある場合、日中の温度が高い時間帯に行い、適湿を保ちましょう。

- ◆ ハウス果菜類 温度管理の徹底と病虫害防除に努めましょう！
- ◆ 露地果菜類 活着促進のため、土壤水分と地温を確保しましょう！
- ◆ 雨よけほうれんそう ハウスの換気に注意して適切なかん水を心がけましょう！
- ◆ 露地葉菜類 害虫の発生状況に応じた早めの防除を！

1 生育概況

- (1) ハウス果菜類は、半促成きゅうり、半促成トマトとも収穫が始まっていますが、低温経過の影響により出荷開始時期が例年より遅れており、半促成きゅうりでは節間が短いほか雌花が多く草勢低下が懸念されます。
また、雨よけ施設を利用したトマト・ミニトマト、ピーマンでは、定植後の保温管理の程度により、ほ場間で生育に差がみられます。
- (2) 簡易雨よけトマト、露地きゅうり、露地ピーマンは例年と同様5月下旬から定植が始まっていますが、育苗期間中の低温経過により、定植が遅れているところもみられます。
- (3) 雨よけほうれんそうの生育はほぼ順調ですが、寒暖の差が大きいこともあり生育が遅れ気味の圃場もみられます。ハウレンソウケナガコナダニによる被害が散見されています。
- (4) 県北部のレタスは4月下旬定植では、結球が始まっていますが、5月定植では、低温の影響で生育の遅れた圃場がみられます。キャベツも全体的に生育が遅れている状況です。
- (5) 露地普通作型のアスパラガスは県北部で収穫が始まっており、立茎栽培では春芽の収穫が間もなく終了します。ねぎは初期生育がやや遅れたものの、1回目の土寄せが行われています。

2 技術対策

(1) 圃場の排水対策とかん水

例年、排水不良が原因と思われる生育不良が見受けられます。水田転作の場合は、水路等の点検

整備を行い、ほ場外からの水の侵入防止に努めるとともに降雨後の排水を促すための明きよを設置します。また、排水不良が十分改善されない場合は、高うね栽培にするなどの対策が必要です。

排水良好なほ場では、かん水を行うことにより生育促進、収量向上、施肥効率の改善などの効果が現れますので、積極的にかん水設備を設置しましょう。なお、電源設備のない露地では、低コストで設置できる自動簡易かん水装置の導入を進めましょう。

(2) ハウス果菜類の管理について

今後6月上旬頃にかけて気温の低い状態が続くと予報されていますので、前号を参照して温度管理の徹底に努めてください。

今後、気温の上昇とともに収獲量が増加してきます。長期安定生産に向けて、追肥やかん水、整枝、誘引などの作業を遅れないように実施し、草勢の維持に努めます。雨よけトマトで盛夏期収穫作業軽減と秋期増収を目的とする、

「主枝更新処理」や「摘花房処理」は、4月下旬定植作型で6月下旬に右図を参考に実施しますが、「主枝更新処理」では処理後の草勢が弱くなる傾向がありますので、処理前から追肥を行うなど草勢維持に留意して下さい。

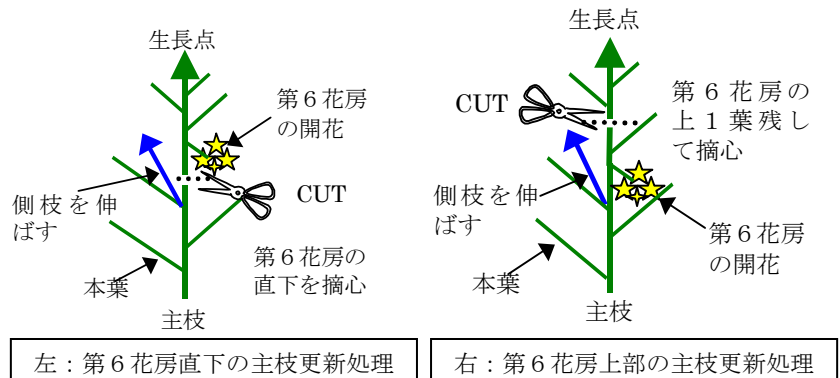


図1 トマトの草勢管理

害虫では、アブラムシ類やスリップス、ハモグリバエ類などの害虫の発生が目立ってきますので、初期防除に努めてください。

病害では、日照不足が続くと、灰色かび病や葉かび病が発生しやすくなります。特に、半促成作型では過繁茂になりやすい時期で、低温時にハウスを密閉すると、湿度が一層高まり、灰色かび病の発生が助長されることから、湿度を上げないように風通しを良くするとともに、予防散布を心掛けてください。

(3) 露地果菜類の定植と定植後の管理

ア きゅうり

生育初期に十分に根群を発達させることが、長期安定生産を実現する重要なポイントです。

初期生育を良好にするためには、土壤水分が適正な状態でマルチを張り、15℃以上の地温を確保してから定植するようにしましょう。

定植作業は晴天日を選んで行い、深植えは避け、根鉢の部分が乾いたら株元にかん水するとともに、天候不順の場合は液肥を薄めて株元に施用するなど活着を促すようにします。また、定植直後の防風、保温対策として、ポリキャップなどの被覆資材の利用が効果的です。

定植後、本葉10枚ころまでに主枝の7節以下の雌花と側枝は早めに除去し、着果させる節位は必ず30cm以上で8～10節からとしますが、節間が短い場合や生長点が小さい場合は、着果させる節位を2～3節上げ、高さ35～40cmまでの雌花や側枝は除去し、草勢の維持を最優先に考えます。最初に利用する側枝1～2本は1節摘心、3～20節前後までの側枝は2節摘心、孫枝

は1節摘心を基本とします。

梅雨時期は、「黒星病」「斑点細菌病」「べと病」を重点とした薬剤を選択し予防に努めますが、最近、一部地域で黒星病対象薬剤の耐性菌が発生している事例がみられますので、薬剤散布の効果が見られない場合は普及センターに相談してください。

イ ピーマン

トンネル栽培では、日中はトンネル内が高温になりやすく、生育障害（葉焼け、落花）が発生しやすいので、被覆資材を開放して換気を行います。有孔フィルムは、最低気温が17℃を超える頃を目安に除去しますが、低温が続く場合は被覆期間を延長します。

露地作型の定植時期は、地域の晩霜限界より5日程遅く設定し、定植1週間前までにマルチを張り地温を十分に上げ活着促進と生育促進を図ります。

整枝は主枝4本仕立てで側枝は放任とします。3本分枝は生育初期に主枝となる枝を4本残して整理するとともに、第1分枝の下部より発生したわき芽は随時かきとります。

誘引は、うねの両側に支柱を立てマイカー線などを高さ50～60cmで水平に1～2段張り、枝が垂れ下がらないようにします。

（4）雨よけほうれんそうの栽培管理

寒暖の差が大きな気象条件が予想されます。換気を十分に行い、ハウス内の気温や湿度が高くなりすぎないように注意します。べと病レース7までの抵抗性を持った品種の作付けが多くなっていますが、抵抗性を打ち破るべと病が発生する可能性もありますので、ハウスの換気を十分行うとともに、適用のある殺菌剤の予防散布を心がけてください。

近年、6月でも高温となることが多く、萎凋病を中心とした土壌病害が早くから発生しています。ハウス内の温度管理には十分注意するとともに、例年土壌病害の発生が多い圃場では、土壌消毒の実施を検討しましょう。

日長が長くなり、ほうれんそうが抽台しやすい条件となりますので、抽台しにくい品種を用いることが基本になります。生育が停滞しないように、播種前の十分なかん水、温度管理を徹底するとともに、乾燥する場合は、生育中（本葉3～4枚以降）かん水も行うようにしましょう。

ホウレンソウケナガコナダニによる被害は全県的に見られています。防除対策として次の点を実践しましょう。

- 春～夏には堆肥の施用を控える。
- 農薬使用基準を遵守しつつ、薬液がムラなく十分かかるように丁寧に散布する。
- 被害の見られた株や残さは必ずハウス外に持ち出し処分する。
- 播種前に、地下5cmの地温が45℃3時間継続するように、ビニール被覆を行う。

（5）露地葉菜類の害虫防除

ア キャベツ

平年に比べてコナガの産卵数は少ない傾向にありますが、幼虫の発生を確認したら早めに防除

を行いましょう。

また、これから定植する作型では、必ず定植時に殺虫剤を施用しまししょう。

ヨトウガのフェロモントラップへの誘殺はまだ見られていませんが、今後の発生予察情報に留意し、適期防除開始に努めまししょう。なお、同系統の薬剤の連用とならないように注意して防除しまししょう。

イ レタス

ナモグリバエの被害が多くなる時期です。特に低温で経過すると発生が継続して、生育や収量にも影響を及ぼす可能性がありますので、早めの防除を心がけまししょう。防除開始の目安は右図を参照して下さい。

【防除適期の判断方法】（図参照）

最上位葉～1枚目には被害がみられないので、2～4枚目の葉における幼虫の食入痕の有無を観察する。防除適期は幼虫の食入開始初期（図の2、4葉にみられる被害程度）である。



図2 ナモグリバエ幼虫の食入程度

(6) アスパラガスの栽培管理

普通作型のアスパラガスでは、L品の割合が20%を切るようになった頃が収穫終了の目安です。立茎栽培（2期どり栽培）を行う場合には、更に早く春芽（立茎前の萌芽）の収穫を終了します。

春の収穫が終了した後、茎葉が繁茂する前から、斑点病、茎枯病を対象とした殺菌剤を予防散布します。また、倒伏防止用のフラワーネットの利用や雑草防除により、通風や日当たりを良くするように心がけます。

(7) ねぎの栽培管理

定植後1ヶ月程度たってから土寄せ（土入れ）を開始し、その後生育状況を見て追肥、土寄せを行います。乾燥でやや生育が遅れている圃場もありますので、無理な土寄せは行わず、計画的な作業を心がけまししょう。

ネギコガの発生は少ない傾向にありますが、今後の発生消長に留意し早めの防除を心がけまししょう。

春の農作業安全月間実施中！

農作業 慣れと油断が 落とし穴 初心を忘れず 安全第一

**6月1日～8月31日は
農薬危被害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しまししょう。
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しまししょう。
- 農薬の保管・管理は適切にしまししょう

次号は6月29日（火）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。